

歯切れよいクリック感

新構造採用 スイッチ類拡充

東京コスモス電機

東京コスモス電機は2012年内に、新たなクリック構造を採用したスイッチ類を投入する。無線機器や通信機器向けつまみに使用されるロータリー（回転）スイッチの量産を月10万個で始めたほか、電源ボリウム用の製品も投入する。従来製品からの置き換えを進め、新構造を採用した製品シリーズで月150万個の販売を見込んでいる。

開発したのはインクリメンタル（相対位置検出）方式のロータリースイッチ。軸の回転に合わせて操作量を検出するスイッチ

チで、無線機などのつまみに使用される。1月に月10万個で量産を立ち上げた。スイッチ内部にはロー



ラークリック方式と呼ばれる独自のクリック構造「ピーグリッド」を採用。つまみの両側に二つのローラーを設置する構

造で、ローラーが回転して溝にはまることにより操作量を検出する。このため、つまみの回転がなめらかとなり、厳しい環境においても安全で確実に操作できる。

また、つまみとローラーの間にはスプリングと呼ばれる板バネを用いている。この板バネがローラーをしっかりと押しつけるため、回した際に歯

切れのよいクリック感を与える。チャンネルを切り替える際のエラー防止に役立つという。

ピーグリッドを採用した製品はすでに、無線機器向けのコードスイッチを投入している。今回のロータリースイッチは第2弾となる。年内をめどに電源ボリウムを投入する方針。従来製品と

互換性があり、新製品への置き換えを進めていく。